

ダイバーシティリレーエッセイ～様々なひとの多様な視点～

二足の草鞋

I wear two hats: office worker and soccer coach

大橋 嘉公

夕暮れどき、オレンジ色に染まったグラウンドに子どもたちの笑い声が響く。平日の夜、仕事を終えてからサッカーコートに立つ。会社員でありながら地域のサッカーチームのコーチを務める私にとって、この時間は単なる趣味ではなく、人生の大切な一部だ。練習を終え、ゴールポストの影に腰を下ろし、汗をぬぐい充実した表情を浮かべる子どもたちの姿を見ると胸の奥が温くなる。しかし、かつては練習時間と勤務時間の両立に苦勞し、コーチを続けることが難しい時期もあった。そんな状況を変えてくれたのが、会社のフレックスタイム制度だった。

フレックス勤務を活用し、私は平日夕方からの練習に間に合うよう、出勤時間を早めることとした。朝型の勤務は最初こそ慣れが必要だったが、早朝まだほとんど人がおらず電話もかかってこない静かな時間に集中して仕事を進めることができる。また夕方までに仕事を終えるために効率的に仕事を進める習慣が身につく、逆に生産性が上がった。そして、夕方には子どもたちの練習に参加し、グラウンドで笑顔と汗に包まれる。仕事とコーチ活動の両方に全力を注げる環境は、まさに「働き方の多様性」の恩恵だと感じている。

さらに、この経験は私の職場への視点も変えた。サッカーチームには、年齢も性格も目的もバラバラな子どもたちが集まる。ある子はスピードが武器、ある子は仲間を励ますのが得意。また本気でプロを目指す子もいれば、友達との時間を楽しむために来る子もいる。そのようななか、チームとして目指す姿を共有し、多様な個性を活かすことがチームを強くする。職場でも同じだ。多様な背景や働き方を認め合うことで、チーム全体がより柔軟で創造的になる。フレックス勤務や在宅勤務といった制度は、単なる福利厚生ではなく、ダイバーシティを活かすための重要な土台だ。

仕事とサッカーコーチという2つの「フィールド」を行き来する日々は、忙しいが充実している。フレックス勤務によって時間の自由度が増した。またそれを支えてくれたのは、職場の仲間たちの協

力だった。ダイバーシティを尊重する文化があるからこそ、私は自分らしい働き方を実現できている。これからも、この両立を続けながら、職場でもグラウンドでもチームの成長に貢献していきたい。



心をひとつに挑む県大会の様子

分野を越えて見えたもの

What I discovered beyond my field

田中 芹奈

「それって普通じゃないよ」と言われて、戸惑ったことがありました。

これまでの研究では“当たり前”だった考え方が、別の分野に行くと同じくない。そんな経験を通して、私は“多様性”という言葉の意味を、少しずつ実感するようになりました。

博士課程まで、Al-Mg-Si合金に形成されるナノクラスタに関する研究に取り組み、専門を深く掘り下げることこそ研究者としての本道だと考えていました。ところが、修了後に選んだのは「ターボ冷凍機的设计開発」という実用工学の現場です。設計の仕事は、まるで文化の違う国に来たような感覚でした。研究で重視される「理論の積み上げ」や「再現性」よりも、現場では「納期」「コスト」「経験則」など、異なる優先順位で物事が動いていました。考え方の違いは尊重してきたつもりですが、その背景にある価値観や判断基準を理解する難しさに直面し、そのなかで多くのことを学びました。

その後、ご縁があって大学に戻り、助教として再び研究の道に挑戦することになりました。そこでも、新たな壁がありました。採用された研究室は、それまでの専攻とは異なり、自分の専門性がそのまま活かせる場ではありませんでした。講義準備も研究も試行錯誤の連続で、「これでいいのだろうか」と手探りの日々です。それでも、異なる考え方や立場に触れるなかで、理解し合うために努力を重ねることの大切さを実感するようになりました。

振り返ると、私が歩んできた道は、分野や立場を越えながら“違い”と向き合い続けてきたように思います。多様性は前向きな言葉に聞こえますが、実際には摩擦や孤独を感じる場面もありました。それでも、そうした違いに向き合い、対話を重ねるなかで気づかされることが少なくありません。まだ研究者として未熟で、迷いも多い日々ですが、「正解の形は一つではない」と認め合うことが多様性を尊重するということのかなと少しずつ思えるようになってきました。自分の“当たり前”を問い直し、違いを受け入れていけるよう、これからも模索していきたいと思っています。

現在は軽金属の研究から離れたテーマにも取り組んでいますが、学生時代に学んだ分析技術や学会での経験は今も自分のなかに根づいています。分野が変わっても、真摯に向き合う姿勢と学び続ける気持ちを大切にしていきたいと考えています。これからも戸惑うことや迷うことはあると思いますが、多様な人や価値観に出会いながら自分らしい歩みを続けていきたいと思っています。



研究室の日常